



<http://gochamazetamago>.

main.jp/



久しぶりのにじたま発行になりました。今年度の活動を一挙に振り返ります☆

今回はフランス留学レポートも！ 珍しくグローバル？なにじたま、ごゆっくりご覧ください(*^^*)

【第7回青森国際ナショナル LGBT フィルムフェスティバルに参加】

平成24年7月8日、第7回青森国際ナショナル LGBT フィルムフェスティバルが開催されました。今年は映画祭へのツアーを企画する事で、皆さんへ呼びかけをすることにしました。呼びかけをした結果、予想を上回る方々に参加を頂き、大変嬉しく思い、感動しました。

しかしながら、ツアーは第一回目という事もあって何かと行き届かず、参加された皆さんにはご迷惑をお掛けしたかと思えます。来年は反省点を踏まえ、今度はちゃんと実の詰まったツアーに…。映画は、やはり今年も考えさせるものばかりでとても興味深く、今後の活動についても勉強させられる思いでした。 (柊)



【ワークショップを開催しました！】

平成24年11月4日、アピオあおもりにて、スクランブルエッグは『テレビの中だけじゃない！身近なセクシュアルマイノリティ』というテーマでワークショップを行いました。当事者との向き合い方に関する体験談や、意識しないうちにそうだと思いきこんでいないかという話題がとりあげられました。会場にはセクシュアルマイノリティ当事者も当事者でない方もいらっやいました。様々な立場の方にご来場していただき、嬉しいです。今回のワークショップが様々な考え方を知るきっかけになれば幸いです。 (みゆう)

身近にセクマイがいる人といない人のそれぞれから頂いたアンケートの結果をもとにした座談会でした。ゲイであることを明らかにして公の場に出たことがほとんどないため緊張していましたが、当事者ではない方々も関心を持って臨んで下さっている雰囲気や伝わる素敵な座談会でした。少しずつ質問の声や挙がり、予定は大幅に遅れながらも(笑)それこそが楽しい座談会でした(もっと話したかった！)。当事者の声を届けるこのような機会がもっと増えればいいなと感じました。 (けんじ)

【IDAHO メッセージ展、今年も無事開催！】

平成24年7月8日、今年度も青森国際ナショナル LGBT フィルムフェスティバルさんとコラボして、映画祭会場前でIDAHO メッセージ展を開催しました！上映の合間の休憩時間に見て下さる人が多く、嬉しく思いました。たまたま立ち寄ってくださった方もいらっやいました。そんな中で「これからも続けてほしい」「応援してます」などのあたたかい言葉を頂いたことは、私達メンバーの今後の励みとなりました。お越し下さった皆さん、そしてご協力下さった映画祭さん、ありがとうございました！ (愛理)

【東北各地でイベントを開催している団体】

- 青森国際ナショナル LGBT フィルムフェスティバル <http://www.aomorilgbtff.org/>
- 性と人権ネットワーク ESTO <http://akita.cool.ne.jp/esto/>
- 岩手レインボー・ネットワーク <http://ameblo.jp/iwaterainbownetwork/>
- ♀×♀お茶っご飲み会・仙台 <http://blog.goo.ne.jp/ochakkonomi>
- A n e g o <http://blog.canpan.info/anego/>
- やろっこ <http://sendai865.web.fc2.com/>



フランスLGBT事情レポート



2010年9月~2011年7月までの約10ヶ月、私・ほよはフランスのボルドーに留学していました。
今回の特集では、私が見聞きしたフランスのLGBT事情をレポートします！

フランスで道端を歩いていると、目に飛び込んでくるのはカップルの群れ、群れ、群れ……（笑）フランスという日本よりも色々オープンな国だというイメージがあると思いますが、恋人たちのスキンシップに関してはまさにそう。慣れるまでは目のやり場に困りました。

しかし、堂々としていることが悪いこととは思いません。公然とカップルらしく振る舞う人の中には、ゲイやレズビアンの人もありました。実際にフランスでは、同性婚は認められていないものの、PACSというパートナーシップ制度が認められています。

フランスLGBT 豆知識①

PACS (PActe Civil Solidarité: 連帯民事契約) は、成年者2人が共同生活をするために結ぶ契約のことで、1999年からスタートしました。結婚と違い、異性間だけではなく同性間でも認められ、一方の意志だけでも解消することができます。事実婚と結婚の間にある、緩い形での準結婚制度なのです。

留学中、偶然にも以前日本に留学していたゲイのフランス人学生と友達になることができました。初めて彼とセクシュアリティについて話したときは、驚きの連続でした。まず、最初の恋人（もちろん男性）を予告なく実家に呼び、家族にカミングアウトしたということ。彼は、自分のセクシュアリティのことは祖父母まで知っているし、全く問題がないと笑っていました。彼の場合は少々極端な例ですけどね^~; 日本に留学していた頃、彼は日本人のゲイとも交際したことがあると言います。しかし、それは決して楽しいものではなかったようです。「日本人は自分のセクシュアリティを隠そうとする。人目を気にして手も繋げないなんてつまらない！」憤慨する彼の前で、私は肩を竦めるばかり……。

留学して半年経った頃、彼は私が通っていた大学にあった LGBT サークルを紹介してくれました。週に一度、バーの一室を貸し切って、交流を楽しみます。時には真面目なミーティングになって語り合ったり……というのも、このサークル目的は「LGBT 仲間との交流の場を提供する」とこと、「ホモフォビア (=同性愛嫌悪者) と戦う」ことだったからです。不満があればすぐストライキやデモを起こすフランス人の特徴が現われているような気がします。

大学の組織ではありましたが、メンバーには社会人もいました。バーに来るのはせいぜい 20~30 人でしたが、総メンバー数は 100 人以上。移民の多いフランスなので、メンバーの中には外国人も目立ちました。しかし、アジア系は極まれ。最初に顔を出した日には質問攻めに遭いました。緊張するわ、フランス語は分からないわでしばらく隅っこで小さくなっていました私ですが、何度も参加するうちに打ち解け、日本とフランスの LGBT 事情の違いを発見したり、色々質問したりできるようになっていきました。

フランスLGBT 豆知識②

フランス人男性はアジア系女性が好きだけど、何かアジア系男性はフランス人女性にはモテない——というのは良く聞く話。しかし、LGBT の世界では事情は逆らしいです。アジア系男性はゲイにモテて、アジア系女性はレズビアンにはモテないとか。真偽の程は定かではありませんが……。あ、私は何もなかったです（笑）

現地の人と話すことで初めて気が付いてショックだったことに、言葉の問題があります。例えば日本では、ゲイやレズビアンのことを、当事者間でも「セクシュアルマイノリティ (=性的少数者)」と表現します。しかし、これをフランスで、しかも当事者の間で言ったら怒られます。「私たちは少数者じゃない！」——それが彼らの言い分です。指摘されて以来、私は意識的に、普段から LGBT という言葉を使うようになりました。

クイズ大会や仮装パーティなど、サークル内でのイベントもたくさんありましたが、大学でのセミナーや、映画祭といった地域でのイベントも、かなり充実していました。

その中でも最大のものは、やはり毎年行われる「ゲイプライドパレード」でしょう。ボルドーでは6月中旬にありました。

日本との規模を比べてみると、2010 年の場合、東京で参加者が5000 人弱だったのに対し、地方都市のボルドーで約 7000 人、首都のパリでは3万 5000 人です。日本よりも人口が少ないにもかかわらず、これだけの参加者がいるのです。もちろん全員が当事者であるというわけではなく、お祭り感覚で参加したり、飛び入りで一緒に歩く人もたくさんいます。

私もサークルのメンバーと一緒に参加しました。参加団体は飾り付けたトラックを用意し、先頭集団に続いてみんなでその側を歩くのです。ショーができるような大きなトラックを走らせている団体や、派手な衣装に身を包んで踊り狂う人——そうでなくても声をあげてレインボーフラッグを振ったりと、各々楽しそうに参加していました。私も騒ぎすぎて、レインボーフラッグを1本壊してしまいました(笑) 3時間ほどかけて、街の中を練り歩きました。

こんなふうに主張する側が堂々としている分、批判する人も堂々としていました。パレードへの罵声を浴びせる人もいたのです。日本より寛容に見えても、LGBT 団体やゲイプライドのようなイベントがあるのは、差別もまた残っているからなんですよ。

フランス LGBT 豆知識③

2011 年、5月～7月にゲイプライドが行われたフランスの都市は、パリやボルドーを含めて全部で 18 都市もあります。

ヨーロッパの他の国でも、あちこちでゲイプライドが行われるのがこの時期。もしこの時期に旅行する機会があったら、近場のゲイプライドに足を運んでみてはいかがでしょうか？



↑ボルドーのゲイプライドにて、参加していた LGBT サークルのトラック。

フランスでの生活を振り返ってみて思うこと——それは、こんなに自分らしく生きたことはなかったという一言に尽きます。フランス滞在時、私は周囲に自分のセクシュアリティを隠していませんでした。その結果、得ることのできた出会いがありましたし、何より精神的にとても楽でした。

日本ではさすがにそこまでオープンにはなれませんが、日本の LGBT 事情を変えたいと思うなら、黙っているばかりではどうにもならないことを私は知っています。まずは当事者が動かなければ、何も変わらないのです。実は、それこそ私が、こうしてたまごで活動している理由でもあるのです。

最後まで読んでくださりまして、ありがとうございました！

「自分らしく生きる」— それは誰にとっても、実はとても難しいことでもあると思います。自分らしさが何なのかわからないことも多々あります。でも、ありのままの自分を受け入れてくれる場所に出会えた時に、本当の自分はどうな生き方がしたいのか、何かふっと見つかるのかもしれないね(*~*)

みなさんの「自分らしさ」が、これからもますます輝いていきますように！

(創)

【緊急開催！ Save the Pride!】

2012年、8月11日(日)、東京・代々木公園にて、「緊急開催！ Save the Pride!」が行われました。

非営利団体の「東京プライド」によるパレードは、2010年以来2年ぶりの開催になる予定でしたが、実行委員長の体調不良により、一度6月に中止が発表されていました。しかし、その後社会人や学生の有志が集まり、今回の「緊急開催！ Save the Pride!」を実現させたのです。

私・ほよも、お盆の満席夜行バスで突撃してきました。今回は緊急開催だったこともあり、参加人数は600人と小規模でしたが、それでも賑やかさは劣りませんでしたよ。

2012年は、東京だけでも4月のレインボープライドと今回のパレードの2つがありましたが、それに加え、大阪では「関西レインボーパレード」、名古屋と沖縄ではそれぞれ初めてのプライドパレードが開催されており、まさにパレードの当たり年でした。今後も、日本中に開催地が増えていくといいですね。

【告知！ ラジオ放送】

2月14日(木) 11:30~12:00、「八戸コミュニティラジオ放送局 BeFM」の、「はちのへ HOT LINE」にて、たまごの紹介があります☆ 詳しくはこちら↓

○八戸コミュニティラジオ放送局 BeFM

<http://www.befm765jpn.org/oz/>

○ふれあいセンター わいぐ

<http://www.htv-net.ne.jp/~supo-cen/index.html>

【新メンバー紹介】

十和田市在住のゲイ。人見知りですが、たまごのみなさんとお話するのがいつも楽しみにしています。どうぞよろしく(^-^)/



(けんじ)

【Smash Hit!】

IS～男でも女でもない性～

六花チヨ/講談社/2003～2009

生物学的に男とも女とも判断できない性・インターセクシュアル。この物語には、年齢や立場の様々なインターセクシュアル当事者の生き様が描かれています。1巻は読み切りの短編2本で構成されており、2～17巻はインターセクシュアルの主人公・春の幼少時代から大人までを描いた長編になっています。テーマは重いのですが、何事も前向きに捉えて生きていこうとする主人公や、それを支えようとする友人や家族の姿に心が温まります。セクシュアリティのことだけではなく、自分らしくあることや、愛することについて、深く考えさせられるお話です。当事者でなくても、共感できることがたくさんあることでしょう。



☆編集後記☆

編集デビューしました。気が付けば、学生生活残りわずか。青森を去るのももうすぐです。今後は、たまご東京支部として活動しちやおうかな♪

ほよ



☆☆☆ メルマガ登録受付中!! ☆☆☆

スクランブルエッグでは、この度メールマガジンを始めました！登録は無料です(^-^)

「無理せず楽しく、自分達の生活を大事にしながら、できることをしてみよう！」というのがモットーのたまご。イベント自体は年に2～3回程度ですが、開催のお知らせのメール等を配信させていただきます。

登録ご希望の方は、件名に「メルマガ希望」と入れて、gochamazetamago@yahoo.co.jp までご連絡ください！

【にじたまの主な設置場所】

青森県立図書館／青森市民図書館／青森県男女共同参画センター「アピオあおもり」／青森市男女共同参画プラザ「カダール」／弘前市立図書館／弘前市民参画センター／弘前大学／藤崎町ふれあいずむ館／平川市文化センター／スポカルイン黒石／五所川原市立図書館／八戸市立図書館／八戸市図書情報センター／八戸市市民活動サポートセンター「ふれあいセンターわいぐ」／十和田市民図書館／三沢市公会堂／むつ市立図書館／FMアップルウェーブ コミュニティスペース「はむ」